

市民のみなさんにインタビュー

市民の皆さんが考える、 移住・定住、 地域での暮らし。



人口問題は自分たちの暮らしに直結する重要な事という意識付けをすることが大切

浅海良一さん（会社員・富士見ヶ丘）



学生時代に一度蕪崎を離れましたが、現在は市内に勤務しています。普段なかなか人口問題ということ考えたことは無かったです。

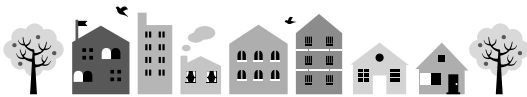
あらためて考えてみると、私たちの暮らしや、行政サービスなどにも直結する重要なことなんだと実感しました。

気軽に参加できる地域のサークル活動があると地域に溶け込みやすいですね。

名取知佳さん（主婦・穂坂町）

新潟県出身で、結婚を機に蕪崎へ来ました。

家族以外に知人もいなかったのが、最初は戸惑いもありましたが、地区のバレーボールの集まりなどに参加させていただき、地域の方々にも顔を覚えていただき、自然と地域に溶け込むことができました。このように、地域内にみんなが気軽に参加できるサークルがあると、他から来た方が地域に溶け込むきっかけになるのではないのでしょうか。



自らも地域に溶け込もうとする努力が必要だと思います。

内藤良子さん（主婦・富士見）



出身は埼玉県で、結婚を機に蕪崎へきました。

現在は、アパート暮らしなので、地域とのつながりもそれほどありませんが、将来的には、夫の家族との同居も考えているので、やはり地域に入るということも意識しています。そのためにも自分自身が蕪崎を好きになり、この地に愛着をもつことで、地域に少しずつ受け入れられるよう努力していきたいですね。

地域に顔見知りがあると心強いですね！

内田貴子さん（主婦・藤井町）

仕事の関係で夫と一緒に熊本県から蕪崎に来ました。アパート暮らしで、地域内にはほとんど知り合いがいませんが、近所に良く話かけてくれる方がいて顔見知りになりました。だれも知らない地域だけに、何かあった際には、そういう方の存在は心強いですね。



交流人口を増やす！これも重要なことだと思います。

保阪正裕さん（果樹栽培・一ツ谷）



蕪崎の果樹や自然といった魅力をもっと発信して、多くの方を蕪崎に呼び込みたいですね。移住だけにとらわれずに、交流人口を増やすという取り組みも重要だと思います。多くの方が集まる場所には自然と人も寄ってくると思います。

移住者と地域、 ともに幸せになるために、 一緒に取り組みませんか。

市では、現在、市民の皆さんにとって「住みよいまち」「住み続けたいまち」また、移住・定住を希望する方々にとって魅力的なまちである為に、人口減少対策への取り組みを国、県、他市町村と連携しながら、効果的かつ戦略的に実行するため、「葦崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定作業を進めています。

この総合戦略には①「産業・雇用の創出」②「移住・住宅の促進」③「結婚、婚活・出産、子育て支援」④「地域のつながり、安心・安全の確保」の4つの基本目標を掲げ、行政だけではなく、市民の皆さん、事業者、NPOなど、多くの方々や団体と連携し、策定作業を進めています。

また、東京の有楽町にある「やまなし暮らし支援センター」とタイアップし、葦崎市移住セミナーを定期的に実施。これについても、先輩移住者の皆さんにご協力いただくなど、市民参加による取り組みを進めています。

移住・定住対策は、行政だけで取り組めるものではありません。もちろん仕組みづくりとしての行政の役割は必要ですが、ここに住む皆さんが、移住者を受け入れ、手助けをする意識も重要であります。移住をする人も、移住を受け入れる私たちも「人」です。そこには、「心」という目に見えないものが存在します。もちろん移住者自身の努力も

必要ですが、こうした意識を心がけることで、双方の気持ちを通じ合い、移住へのステップを踏めるはずですよ。

今後、市では、広く市民の皆さんにご参加いただくなかで新たに「チーム葦崎移住応援サポーター」を組織し、移住希望者をサポートするほか、移住セミナーへのご協力や空き家バンクへの登録を引き続き呼びかけて行きますので、ぜひご協力をお願いします。

ここに住むすべての皆さんが「チーム葦崎」の一員です。

移住者と地域、ともに幸せになるために、一緒に取り組みませんか。